
シンポジウム

スポーツ医学の現状と諸問題

Current Status of Sports Medicine and its Future Prospect

第528回新潟医学会

日時 平成9年5月17日(土)午後3時10分～5時40分

会場 新潟大学医学部 有壬記念館

司会 高橋栄明教授(整形外科)

演者 荒川正昭(第二内科), 船崎俊一(済生会新潟第二病院循環器科), 大森 豪(整形外科), 高橋邦明(松浜病院), 吉沢浩志(前医療技術短期大学部), 村井 弦(村井整形外科)

発言者 亀尾 徹(新潟こばり病院), 杉本英夫(新潟大学教育学部), 佐藤渥子(新潟商業高等学校)

司会 2002年にサッカーのワールドカップが日本と韓国とで共催に決定し、新潟もその開催地の1つとして選ばれました。それにより、新潟において、サッカーやほかのスポーツにますます興味が持たれ、医学部においても各科医師・学生の間でスポーツ医学に対して関心が非常に高まっています。

新潟医学会で新潟におけるスポーツ医学の現状について新潟県スポーツ医科学委員会委員長の荒川正昭教授から基調講演をしていただき、各科の医師、病院勤務医、開業医の皆さんがスポーツ医学にどのように関わりあっているかをお話いただき、スポーツ医学についての将来展望をして頂ければと思います。

1) 新潟県におけるスポーツ医学

新潟大学医学部第二内科学教室 (主任: 荒川正昭教授)

荒川正昭

The Present Situation of Sports Medicine in Niigata-ken
(Niigata Prefecture)

Masaaki ARAKAWA, M.D.

*Department of Medicine (II),
Niigata University School of Medicine
(Director: Prof. Masaaki ARAKAWA)*

Sports medicine has been recognized to be an unique field of medicine, of which the subjects are not only the patients with bone, joint and muscle injuries or other organ disorders caused by sports activities but also the healthy young athletes who are training actively for making better records. Most of medical school graduates are not interested in sports medicine in Japan. However, the number of young doctors majoring in sports medicine are gradually increasing, although most of them are orthopedic surgeons. We are expecting that young physicians, pediatricians or psychiatrists will work up the interest in this field.

In Niigata-ken Niigata Sports Medicine Society, which was build in 1984 as the only one research group of sports medicine in this area, has been promoting their research, particularly in the field of orthopedic surgery. In 1990 Niigata Amateur Sports Association organized a new committee, Sports Medecine Committee, which is non working for medical support of excellent young athletes or individual sports associations. There are 28 so-called "sports doctors" certified by Japan Amateur Sports Association in Niigata-ken, most of whom are participating as medical consultants in sports association.

It is a good news that Niigata-ken has decided to build a new research institute of sports medicine in the near future. We hope that it will be useful to promote the research of sports medicine as well as to train promising young athletes.

Key words: Sports Medicine, Sports Doctor

スポーツ医学, スポーツドクター

Reprint requests to: Masaaki ARAKAWA, M.D., 別刷請求先: 〒951-8510 新潟市旭町通1番町
Department of Medicine (II), 新潟大学医学部第二内科学教室 荒川正昭
Niigata University School of Medicine,
Asahimachi-dori 1, Niigata City,
951-8510, JAPAN.

近年、我が国においては、スポーツ医学に対する人々の関心が高まっているが、この領域で診療や研究に従事している医師は未だ少ないのが現実である。実際に活動している医師の多くは、整形外科の専門医であり、選手にとっても骨・関節・筋の障害が最も関心のあるところである。最近の競技選手のトレーニングも、極端な精神主義は影をひそめ、医（科）学理論に基づいた科学的トレーニングとなり、内科、小児科、精神科、あるいは心療内科の専門医が参加するようになってきた。勿論、医師以外でも、教育学あるいは体育学系の保健体育教育の専門家も、真剣に取り組んでいる。

スポーツ医学は、スポーツにおけるヒトの生体機能あるいは臓器・組織の機能を解明し、その向上をめざして研究する学問と定義出来る。その対象には、前述の競技スポーツ（優秀選手の育成・強化）のみでなく、学校体育、生涯スポーツ（幼・小児—思春期—成年—老年）も含んでいる。これらの対象によって、その取り組み方も当然異なってくる。生涯スポーツは、長い人生を心身ともに健全な状態で過ごして、健康長寿を願っているが、競技スポーツでは、個々の選手がそれぞれの目標を達成するために如何に効果的にトレーニングするかに関心事であり、異なる次元の問題である。以下、ここでは競技スポーツに限定して、話をすすめていく。

我が国のスポーツドクター制度をみると、昭和57（1982）年に日本体育協会公認スポーツドクターが、昭和61（1986）年に日本整形外科学会認定スポーツ医が、平成3（1991）年に日本医師会認定健康スポーツ医の制度が発足し、現在に至っている。このなかで、日本体育協会公認スポーツドクターについて、新潟県の現状をみると、整形外科医13名、リハビリテーション医1名、外科医4名、内科医8名、小児科医1名、産婦人科医1名、合計28名が認定されている。この数は決して多いとはいえ、私達はスポーツに関心のある若い医師にこの資格を取得することを説いている。一人でも多くの若者にチャレンジしてほしいと願っている。

スポーツ医学の研究交流の場としては、昭和50（1975）年に日本整形外科スポーツ医学会が設立された。次いで、この学会の関連学会として、昭和54（1979）年に東日本

スポーツ医学研究会が、昭和60（1985）年に関西臨床スポーツ医学研究会が発足したが、前者は平成元（1989）年に日本臨床スポーツ医学会となり、整形外科医とともに内科医も参加するようになった。これとは別に、昭和24（1949）年に設立された日本体力医学会も、独自の活動を行っている。一方、教育学系、体育学系の大学・学部は別として、大学医学部・医科大学のなかでスポーツ医学の講座を設置しているところは極めて少ないのである。また、国・都道府県、市のなかで、いくつかのスポーツ医学の研究施設がみられるが、欧米のスポーツ先進国の実情からみると、かなり遅れているのが現実である。

新潟県におけるスポーツ医学の取り組みをみると、昭和59（1984）年に新潟スポーツ医学研究会が設立され、現在まで地道な活動を続けている。また、平成2（1990）年には、新潟県体育協会のなかにスポーツ医科学委員会が新設され、(1) スポーツ医科学推進整備事業（① 国体選手の医科学サポート、② スポーツドクター設置推進事業—スポーツドクター活動補助事業とチームドクター派遣事業）、(2) 優秀競技者の調査研究事業、(3) スポーツ医科学電話相談などの事業を行っている。さらに、近い将来建設される新しい陸上競技場のなかに、スポーツ医科学研究所（仮称）が置かれることになっており、関係者の期待が集まっている。この施設の規模、設備などについては、必ずしも十分ではないかも知れないが、新潟県の競技スポーツの発展の原動力となるべく、大切に育ててゆきたいものである。

筆者は、現在新潟県スポーツ振興審議会の会長ならびに新潟県体育協会スポーツ医科学委員会の委員長を拝命しているが、新潟県のスポーツ医学の一層の発展のため、微力ながらお役にたちたいと願っている。

司会 荒川先生大変ありがとうございました。非常に幅広い、現在のスポーツ医学の現状、新潟県における取り組み方、お話いただきましてありがとうございました。次にシンポジストのお話を頂いてから総合討論に参加していただきたいと思います。では、第2席に移りたいと思います。船崎俊一先生よろしくお願いたします。